

●自然体験

焚火体験

11 住み続けられる
まちづくりを13 気候変動に
具体的な対策を

概要

薪割りをして火を起こす活動です

人数

- ・何人でも
- ・1グループ 6～10人程度

対象

- ・誰でも

実施期間

- ・通年

所要時間

- ・1～2時間程度



活動場所

- ・くわの実広場、多目的ホール

指導のねらい

- ・被災地に生き抜くための知識や火を扱う技術を身につけるとともに、防災への関心を高める
- ・火を起こすまたはそれを維持する中で、気づいたことや改善しようと考えたことを、主体的に表現したりする力を養う
- ・失敗から学び、工夫しようとする力を養うとともに、自分の役割を生み出す中で客観的な思考力を養う

活動のながれおよび留意点

【事前準備】

- ① 焚火体験について調べる
 - ※ 別紙1～3、動画参照

【当日】

- ① 方法は別紙1～3参照
- ② ふりかえり
 - ※安全管理のための立ち合いや後方支援は行いますが、職員による全体説明はありません
 - ※事前に割り当てられたエリアをご使用ください

準備物品

【山の家で購入するもの】

プログラム	物品・材料	計(1セット)
焚火体験	焚火台・薪 4本	1,000円

※マシュマロ焼きのプログラムとの組み合わせも可能(【マシュマロ焼き】のプログラムシート参照)

※マシュマロのみ持ち込み可能

【山の家で貸出可能なもの】

- ・別紙1参照

【団体で準備するもの】

- ・別紙1参照

備考

焚火体験(準備するもの・全体の流れ)

準備するもの

山の家で購入するもの

焚火台(貸し出し)※薪4本込み

山の家で貸し出しているもの

キンドリングクラッカー、ハンマー、火ばさみ、イス、掃除用具一式 など

団体で準備するもの

● 用具

マッチやチャッカマン

新聞紙(着火用)、ゴミ袋他

● 服装

皮膚の露出が少ない服(火を扱うため)

軍手(綿100%のもの)

※ 化学繊維、滑り止めがついているものは不適

全体の流れ

① イスを準備する

- ・イスを小屋に取りに行く
- ※2人がけのベンチです



② 焚火台を準備する

- ・注文数分の焚火台と薪が入ったリアカーを使用場所まで運び、組み立てる



③ 薪割りをする

- ・薪割り道具を小屋に取りに行き、必要な分だけ薪を割る
- ※ 方法は別紙2参照



④ 火おこし、火の管理

- ・焚火台に薪を組み、マッチやチャッカマンを使って薪に火をつける
- ・小屋に火ばさみを取りに行き、火が小さくなってきたら薪をたす



⑤ 焚火を楽しむ

- ※マシュマロ焼きとの組み合わせ可能
- ※マシュマロのみ持ち込み可能



⑥ 片付けをする

- ※ 方法は別紙3参照

薪割り(方法・留意点)

炊事薪割の方法

①薪の本数を確認する



1セット
【薪の本数4本】
※写真は2セットです

②軍手をはめる

・利き手(ハンマーを持つ手)は素手、反対の手には軍手を2枚重ねてはめる

利き手
(素手)



反対の手
(軍手2枚重ね)

③安定した姿勢をとる

・片ひざをつくと安定する

・立った状態が安定する場合は、立って行う



④軍手をはめた方の手で薪を持ち、クラッカーの刃にあて、数回ハンマーで打ち付ける

・薪に刃が食いこむまで打ち付けたら、薪から手を放す



⑤薪を割る

・ハンマーの重さを利用しながら薪を割る

薪を割ると細かい木くずがたくさん出てくるよ。
この木くずどうする？



⑥用意する薪の太さと本数の目安

・用意する薪は、太い薪2本、細い薪10本くらい、残り薪は中くらいの大きさに割る



留意点

- ・節(ふし)のある薪は固いため、無理に割ろうとしない
- ・近くに人がいないことを確認してから、薪を割る

節(ふし)



⑦キンドリングクラッカーを使って木を細くする



ポイント・留意点

- ・パキッと折れる木は、燃えやすい
- ・しなやかで折れにくい木は、水分が多いため燃えにくい
- ・節のある木は固いため、無理に割ろうとしない
- ・近くに人がいないことを確認してから、薪づくりをする

片付け

片付け

① 焚火台の灰を掃除する

- ・大きな灰を火ばさみで取り、細かい灰は受け皿を持ち、一輪車に集める
- ・灰捨て場のドラム缶に集めた灰を入れる



③ 地面の掃除をする

- ・使用した場所の木くずや灰をほうきとちりとりで集める

※砂や落ち葉は、
ドラム缶に入れず、
周辺の自然に
かえしてください



② 焚火台とイスを片付ける

- ・焚火台が冷めたらケースに入れてリアカーにもどす
- ・イスや火ばさみなどを小屋にもどす

団体が持ち込んだ新聞紙などは持ち帰り



④ 余った薪をもどす

- ・余った薪をリアカーに返却する

限りある資源を大切にできたかな？

